

対人関係能力を育て自尊感情を高めるための
社会性と情動の学習プログラム実践*
—家庭との連携を重視した SEL-8S プログラムの実践—

Implementation of a social and emotional learning program to
develop children's interpersonal skills and self-esteem:
Social and Emotional Learning of 8 Abilities
at the School (SEL-8S) in collaboration with the family

橋本 智恵

小泉 令三

Chie HASHIMOTO

Reizo KOIZUMI

(福岡県苅田町立苅田小学校)

(福岡教育大学大学院教育学研究科)

(平成24年10月1日受理)

本研究では、小学生の対人関係能力と自尊感情育成を目的に、社会性と情動の学習プログラムの1つである SEL-8S を家庭との連携を重視して実施した。参加したのは公立小学校2校で、1校を実験群、他の1校を統制群として、疑似実験法により学習効果を検討した。家庭との連携では、SEL-8S の学習の様子を通信で知らせたり、授業参観で公開したりするなどの取組を実施した。その結果、教師評価において、ほとんどの学年で SEL-8S で育成を図る8つの社会的能力の中の「自己への気づき」や、自尊感情の中の「自信・確信の表明」で、実験群の児童の得点が上昇したりその傾向が認められた。

キーワード：自尊感情，社会性と情動の学習 (SEL-8S)，家庭との連携，小学生

問題と目的

今日の学校現場では、いじめ、学級崩壊、不登校などの学校不適応と呼ばれる現象が問題となっており、その指導や予防を効果的に進めていくための方策が求められている。一方、価値観や生活スタイルがますます多様化している現代の社会を生き抜くためには、主体的に力強く生きていく能力が求められている。このような学校不適応の問題と、今後求められる子どもの姿に共通して必要とされるのが社会性、すなわち対人関係能力の育成であると考えられる。

これについては、地方自治体レベルにおいても

重視されており、例えば福岡の教育ビジョン（教育力向上福岡県民会議，2008）で、本質的な課題としてあげられている自尊感情や規範意識の低下への対策として、対人関係能力の育成があげられている。すなわち、本提言によれば、規範意識を高めるために「よりよい人間関係を形成する力の育成と他者と関わる体験活動の充実」が指摘されている。また、自尊感情を高める取組の視点として、「集団で自分の役割を果たす体験と、互いを認め合う集団づくりの推進」があげられている。

対人関係能力を学校で組織的に育成する取り組みは、米国では1980年代から始まっており、そ

*本研究の一部は、文部科学省特別経費プロジェクト分（領域：「大学の特性を活かした多様な学術機能の充実」、期間：平成22～24年度、研究題目：「若年層教員キャリアモチベーション支援システム開発事業」）の助成を受けた。

ここで開発され使用されるようになった種々の学習プログラムは、総称として社会性と情動の学習 (Social and Emotional Learning; 以下、SEL とする) と呼ばれている (イライアスら, 1999)。これは、わが国では「自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした、社会性 (対人関係) に関するスキル、態度、価値観を身につける学習」と説明されている (小泉, 2011)。

本研究では、SEL の 1 つでわが国で開発された SEL-8S (Social and Emotional Learning of 8 Abilities at the School) (小泉, 2011) を学習プログラムとして実施する。これは、学校で 8 つの社会的能力、すなわち自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意思決定、生活上の問題防止のスキル、人生の重要事態に対処する能力、積極的・貢献的な奉仕活動 (最初の 5 つが基礎的社会的能力、残りの 3 つが応用的社会的能力に区分される) を育てることを目的とした学習プログラムで、小学生版 (小泉・山田, 2011) を用いる。

SEL-8S については既にくつかの実践例が報告されている。例えば宮原・小泉 (2009) は、中学生を対象に学校行事と SEL-8S とを関連づけることで、生徒が対人関係に自信を持つようになったとの結果を示している。また、田中・小泉 (2007) は、小学生を対象に SEL-8S を特別活動や道徳の時間と関連づけて実施しているが、その際、担任が個人別資料一覧表を作成し、児童一人ひとりの育成目標を持つことで、個別の援助が行いやすくなり、指導方法の工夫改善にもつながるという結果が示されている。これらのことから、SEL-8S の取組では、教育課程への位置づけや教育効果を高めるための授業方法の工夫についてはいくつかのモデルが示されてきたといえる。

しかし、先に見た規範意識や自尊心については、中山・小泉 (2010) が小学 4 年生を対象にした SEL-8S の実践によって、子どもの対人関係能力と規範意識が向上することを報告しているのみで、特に自尊感情についてはまだ検討されていない。

また、小泉 (2002) は、保護者や地域社会との関わりの中での学校の役割を明確に意識しておく必要性に言及している。学校は子どもの教育を通して、家庭や地域社会に貢献する必要がある、SEL はまさにそのために有効なものであるというのである。

以上のことから、本研究では SEL-8S を教育課程に取り入れて学校全体で実施し、それによって

子どもたちの社会的能力と自尊感情を高めるような取組を、家庭との連携を重視して実践しその効果を検討することを目的とした。研究方法としては、SEL-8S を実践しない統制校を設ける疑似実験法を用いる。

方法

調査対象者

A 県内の公立小学校 2 校の 1 年生から 6 年生までの児童を対象とした。1 つの学校 (男子 266 名、女子 279 名) が SEL-8S を実施する実験校で、他方を実施しない統制校 (男子 220 名、女子 217 名) とした。

評定尺度

a. 対人関係能力測定のための尺度

小学生版「社会性と情動」尺度 (田中・真井・津田・田中, 2011) を用いて、児童の社会性を支える 8 つの能力である自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意志決定、生活上の問題防止のスキル、人生の重要事態に対処する能力、積極的・貢献的な奉仕活動の測定を 3～6 年生を対象に行った。24 項目 (3 項目×8 因子) について、4 件法 (4～1 点) で評定を求め、各児童について、能力ごとに回答の平均値を算出した (1.0～4.0)。得点が大きいほどそれぞれの能力が高いことを示す。

b. 自尊感情測定のための尺度

井上 (1986) の「児童の自尊行動評定尺度」の中の学習場面に関する 3 つの領域 (失敗事態下の行動、他者の支持を求める、自信・確信の表明) ごとに自尊心タイプ間の差が大きい項目を 3 項目ずつ抽出して 9 項目 (3 項目×3 因子) からなる自尊感情測定尺度を作成し、3～6 年生を対象に実施した。各項目は 4 件法 (4～1 点) で評定を求め、各児童について、領域ごとに回答の平均値を算出した (1.0～4.0)。得点が大きいほど自尊感情が高いことを示す。

c. 教師による個人評定

全学年の児童一人ひとりについて、日常観察法により、学級担任による評定を行った。評定にあたっては、小学生版「社会性と情動」尺度で測定している 8 つの因子それぞれを構成する 3 項目を総合して、1 因子につき一つの評定得点を求めた。また、自尊感情測定尺度で測定している 3 つの領域についても同様にして評定得点を求めた。どちらも 4 件法 (よくできている = 4 点、まあまあできている = 3 点、あまりできていない = 2 点、ほとんどできていない = 1 点) で評定を求めた。得

Table 1 SEL-8S を位置づけた学級活動年間計画一覧表

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4月	学級のめあてを決めよう (1)-ア みなさん よろしく (2)-ウ おはようございます(A) (2)-イ 学校のきまりを守ろう (2)-カ	学級のめあてを決めよう (1)-ア 2年生になってのめあてを決めよう (2)-ア 学級の係を決めよう (1)-イ おはようございます(A) (2)-イ	学級目標を決めよう (1)-ア 1学期のめあてを決めよう (2)-ア おはよう こんにちは さようなら(A) (2)-イ 学級の係を決めよう (1)-ア	学級目標を決めよう (1)-ア 新しい友達と仲良くなろう (2)-ウ 学級の係を決めよう (1)-イ 学校のきまりを守ろう (2)-カ	学級目標を決めよう (1)-ア 5年生のめあてを決めよう (2)-ア 係や当番の活動に責任を持とう (1)-イ こんにちは(A) (2)-ウ	学級目標を決めよう (1)-ア 6年生のめあてを決めよう (2)-ア 係活動を始めよう (1)-イ こんにちは(A) (2)-イ
	学級の係をきめよう (1)-イ 運動会のスローガンを考えよう (1)-ア 給食の仕方を知ろう (2)-キ	学校のきまりを守ろう (2)-カ 運動会のスローガンを考えよう (1)-ア 朝ごはんを食べよう (2)-キ	学校のきまりを守ろう (2)-カ 掃除の仕方を見直そう (2)-エ 楽しい運動会にしよう (1)-ア	楽しい運動会にしよう (1)-ウ 自転車の安全な乗り方 (2)-カ 学級会の進め方 (1)-ア	学校のきまりを守ろう (2)-カ 運動会のスローガンを考えよう (1)-ア 運動会の係をがんばろう (1)-イ	学校のきまりを守ろう (2)-カ 運動会のスローガンを考えよう (1)-ウ 運動会に積極的に参加しよう (1)-イ
5月	入れて(D) (2)-ウ 雨の日の過ごし方を考えよう (1)-ア 人権なかよし集会に参加しよう (1)-ウ 図書館のきまりを知ろう (2)-オ	手伝ってあげよう(D) (2)-ウ 雨の日の過ごし方を工夫しよう (1)-ア 人権なかよし集会に参加しよう (1)-ウ 「はい」と「いいえ(C)」 (2)-ウ	心のしんごうき(D) (2)-ウ 雨の日の過ごし方を考えよう (1)-ア 人権なかよし集会について考えよう (1)-ウ 自分はどんな気持ち?(B) (2)-ウ	しっかり聞こう(B) (2)-ウ 人権なかよし集会 (1)-ウ 雨の日の過ごし方を話し合おう (1)-ア みんなで力を合わせて(D) (2)-ウ	トラブルの解決(D) (2)-ウ 人権なかよし集会 (1)-ウ 上手な聞き方(B) (2)-ウ 雨の日の過ごし方を考えよう (1)-ア	ちょっと落ち着いて(D) (2)-ウ 人権なかよし集会 (1)-ウ 相手はどんな気持ち?(B) (2)-ウ 雨の日の室内の遊びを考えよう (1)-ア
	うれしいこと、しんばいなこと(E) (2)-ウ お楽しみ会をしよう (1)-ウ 夏休みのすごしかた (2)-ア	いろんな気持ち(B) (2)-ウ 1学期のお楽しみ会をしよう (1)-ウ きそく正しい生活で楽しい夏休み (2)-ア	学級会の進め方 (1)-イ 学級のお楽しみ会をしよう (1)-ウ 夏休みの生活を考えよう (2)-ア	放置自転車(規範意識) (2)-カ お楽しみ集会をしよう (1)-ウ 有意義な夏休みを過ごそう (2)-ア	お楽しみ集会の計画を立てよう (1)-ウ 夏休みの過ごし方 (1)-ア	学級スポーツ集会の計画 (1)-ウ 夏休みの計画 (1)-ウ
小計	14	14	14	14	13	13
6月	進んで係の仕事をしよう (1)-イ 2学期前期のめあてを決めよう (2)-ア おこっているわたし(B) (2)-カ ひなんの仕方を知ろう (2)-カ	2学期前期のめあてを決めよう (2)-ア 2学期前期の係を決めよう (1)-イ そうじの仕方を確かめよう (2)-エ 災害に備えよう (2)-カ	2学期のめあてを決めよう (2)-ア 新しい係を決めよう (1)-イ じょうずだね(C) (2)-ウ 楽しい社会見学にしよう (1)-ア	2学期前期のめあてを決めよう (2)-ア 2学期前期の係を決めよう (1)-イ 手伝ってほしい(C) (2)-ウ 社会見学の計画を立てよう (1)-ア	2学期前期の係を決めよう (1)-イ 掃除の仕方を見直そう (2)-エ 誘いをきっぱり断ろう (規範意識) (2)-カ かんだっ子集会 (1)-ア	係活動の見直しをしよう (1)-イ 場にあった掃除の仕方を考えよう (2)-ウ 男の子と女の子(F) (2)-ウ かんだっ子集会 (1)-ウ
	とてもうれしい(C) (2)-ウ かんだっ子集会に参加しよう (1)-ウ くすりってなあに? (2)-カ	知らない人に誘われたら (2)-カ くすりを使うときの大切なきまり (2)-カ かんだっ子集会に参加しよう (1)-ウ	本をたくさん読もう (2)-オ かんだっ子集会について考えよう (1)-ウ それはしない!(F) (2)-カ	掃除の仕方を見直そう (2)-エ かんだっ子集会について考えよう (1)-ウ 図書館を利用しよう (2)-オ	社会見学の計画を立てよう (1)-ア 家庭学習を見直そう (2)-イ 読書生活を豊かにしよう (2)-オ	社会見学の計画を立てよう (1)-ア 家庭学習を見直そう (2)-イ 読書生活を豊かにしよう (2)-オ
7月	絶対について行かない(F) (2)-カ 持久走大会に向けて頑張ろう (1)-ア 係の仕事をがんばろう (2)-エ	係の仕事をがんばろう (2)-エ 持久走大会に向けてがんばろう (1)-ア 図書館の利用 (2)-オ	係活動を見直そう (1)-ア 持久走大会に向けてがんばろう (1)-ア イライラよ、さようなら(E) (2)-ウ	こんな方法があるよ(E) (2)-カ 持久走大会に向けてがんばろう (1)-ア 家庭学習の仕方を工夫しよう (2)-イ	持久走大会をがんばろう (1)-ウ リラックスして(E) (2)-カ ハンセン病について (2)-ウ	卒業文集を作ろう (1)-ア わたしの対処法(E) (2)-カ (わたしはしない)(C) (薬物乱用防止) (2)-カ
	お楽しみ会をしよう (1)-イ 冬休みの過ごし方 (2)-ア	うれしいこと、心配なこと(E) (2)-ウ 2学期のお楽しみ会をしよう (1)-イ 冬休みの生活を考えよう (2)-ア	体を守ろう(薬乱防止) (2)-カ 学級お楽しみ集会をしよう (1)-ウ	お酒をすめられたときの断り方 (2)-カ お楽しみ集会をしよう (1)-ウ	お楽しみ集会の計画を立てよう (1)-ウ 新しい委員会を決めよう (1)-ウ 冬休みの計画 (1)-ア	誠実に行動できるようにしよう (2)-カ お楽しみ集会の計画を立てよう (1)-ウ 冬休みの計画を立てよう (1)-ア
小計	12	12	12	12	12	12
8月	係の仕事を見直そう (1)-イ 2学期後期のめあてを決めよう (2)-ア	13 2学期後期のめあてを決めよう (2)-ア	13 2学期後期のめあてを決めよう (2)-ア	13 2学期後期のめあてを決めよう (2)-ア	13 2学期後期のめあてを決めよう (2)-ア	13 2学期後期のめあてを決めよう (2)-ア
	何でも食べよう(A) (2)-キ 6年生に感謝の気持ちを伝えよう (1)-ア 病気になるために(F) (2)-イ そうじの仕方をたしかめよう (2)-エ	2学期後期の係を決めよう (1)-イ 何でも食べよう(A) (2)-キ 病気になるために(F) (2)-イ 6年生を送る会について話し合おう (1)-ア	新しい係を決めよう (1)-イ 給食ありがとう (2)-キ 6年生を送る会について話し合おう (1)-ア テレビや漫画と私たち (2)-カ	2学期後期の係を決めよう (1)-イ 委員会活動を決めよう (1)-ウ 給食ありがとう (2)-キ 6年生を送る会について話し合おう (1)-ア	2学期後期の係を決めよう (1)-イ 給食ありがとう (2)-キ 6年生を送る会の計画 (1)-ア 6年生を送る会の準備 (1)-ウ	係活動の見直しをしよう (1)-イ 給食ありがとう (2)-キ 6年生を送る会 (1)-ア 思い出を学校に残そう (1)-ア
9月	1年生ががんばったよ集会をしよう (1)-ウ もうすぐ2年生(G) (2)-ア	おうちの方にありがとうを伝えよう (1)-ウ 2年生、さよなら集会をしよう (1)-ウ もうすぐ3年生(G) (2)-ア	男女仲良く (2)-ウ 3年生さよなら集会をしよう (1)-ウ もうすぐ4年生(G) (2)-ア	ちかんやゆうかい (2)-カ 4年生さよなら集会をしよう (1)-ウ もうすぐ5年生(G) (2)-ア	わたしはイヤ(F) (薬乱防止) (2)-カ お楽しみ集会の計画を立てよう (1)-ウ 最高学年になって(G) (2)-ア	自転車の点検と正しい乗り方 (1)-ア お別れ集会をしよう (1)-ウ いよいよ中学生(G) (2)-ア
	小計	9	8	7	5	6
合計	34	35	35	35	35	35

※太字はSEL-8Sのユニット

点が大きいくほどそれぞれの能力が高いことを示す。

調査・ユニット実施手続き

a. 調査

調査は、2011年5月中旬（事前）と、2011年12月上旬（事後）に実験校と統制校で行った。対人関係能力測定のための尺度と自尊感情測定のための尺度は、児童が自分の行動を自己評価した。教師による個人評定は、各学級の担任教師が児童を日常観察法によって評定した。事前の調査結果については、同年8月に両校にそれぞれ報告した。

b. SEL-8Sの教育課程への位置づけ

小学校学習指導要領解説特別活動編（文部科学省、2008）においては、その目標として「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことが示されている。これは、SEL-8Sの目指す社会的能力の育成と一致するものである。さらに、指導内容では、望ましい人間関係形成の指導において社会的スキルを身につける活動を取り入れることなどの記述がある。このことから、SEL-8Sを学級活動の(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の時間に、各学年5～9時間（ユニット）を他の教科、領域、学校行事等を考慮して位置づけた（Table 1）。

c. SEL-8Sを全校で取り組むための手続き

2011年2月下旬に、実験校でSEL-8Sの理論面を中心とした校内研修を行った。また、新年度となった同年4月には、職員会議において、SEL-8Sを位置づけた学級活動年間計画の説明、小泉・山田（2011）に基づくSEL-8Sの指導資料集の配付とその説明を行った。また、担任が授業の流れをイメージできるように、4月には各学年1学級ずつにおいて第1著者がSEL-8Sの授業を行った。残りの全学級においても1学期終了までに、第1著者が授業を行った。各学級での他のユニットはすべて学級担任が授業を行った。

1学期の実践を終えた後、8月上旬に演習を含んだSEL-8Sの校内研修会を行った。ここでは、4年生で2学期に実施の予定であるユニット「み

んなで力をあわせて」の演習を行った。1学期に実施したユニットは、社会的スキルの習得が主だったため、グループ活動の形式で進められるこのユニットの演習が必要であると考えたからである。実施後の教師の感想では、「自分があまり意見を言えないタイプだということが分かった。」などの意見があった。同時に、学年教師で2学期に実施するSEL-8Sのユニットを指導資料集で確認してもらい、学習プリントなどを準備する分担を決めてもらった。

なお、各学年のユニット実施回数は、1年生各学級とも8回、2年生5回～6回、3年生2回～7回、4年生4回～5回、5年生各学級とも4回、6年生6回～7回であった。

d. 家庭との連携及びアンケート

本実践を行うにあたり、家庭との連携を促進するために、以下の4点を行った。第1に、ユニットを行った際は、学習のねらいや学習の様子を学年・学級通信で家庭に知らせるようにした。回数については、Table 2に示す。第2に、9月は6年生を除く全学年、11月は全学年で、授業参観において、ショートエクササイズを公開した。これは、通常5時間目の始業前に行っている10分間の読書タイムを使って行った。特に11月は、保護者も参加できるようなエクササイズを実施した。第3に、ユニットで行った内容について、チャレンジカードを使って学校で1週間のチャレンジ週間を行い、週末にはチャレンジカードに保護者のコメントを書いてもらった。その後、全学級で回収後、1年生1クラス、2年生1クラス、3年生1クラス、5年生1クラス、6年生1クラスでは、担任がコメントを書いて返却した。最後に、ショートエクササイズを公開する際と、5～12月の実践が終わった後の1月上旬にSEL-8Sを行うことについてのアンケートを実施した（Table 3）。なお、ショートエクササイズ公開後の保護者を対象にしたアンケートについては、結果をまとめ、9月下旬と11月下旬に実験校の職員に報告した。

e. 実験校の教師アンケート

2011年11月のショートエクササイズ公開後と、

Table 2 学年通信・学級通信へのSEL関連記事掲載回数（回）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年通信	1	1	0	1	1	0
学級通信	1 1 2	0 2 2	0 1 3	0 0 1	2 2 4	1 2 2

（注）学級通信の欄は、学級別の回数を示す（組は順不同）。

Table 3 全校保護者アンケートの項目

-
1. 人間関係を築いていくための学習プログラム（以下、SEL と呼びます）の学習が行われているをご存知ですか。一番近いものに○をつけてください。
 - ① 4 月から知っている。
 - ② 2 学期になってから知った。
 - ③ 最近知った。
 - ④ 知らない。
 2. 学習参観日（9 月と 11 月）に、SEL の短い活動（10 分間）をしました。この取組をご存知でしたか。
 - ① 知っていて、見た。
 - ② 知っていたが、見ていない。
 - ③ 知らなかったが、見た。
 - ④ 知らなかったし、見ていない。
 3. SEL の学習について、ご家庭でどのくらい話題になりましたか。近いものに○をつけて下さい。（複数回答可）
 - ① 学習があるたびに、話題になった。
 - ② 学年・学級通信が出たときに、話題になった。
 - ③ チャレンジカードに取り組んだ時に、話題になった。
 - ④ 2, 3 回は話題になった。
 - ⑤ ほとんど話題にならなかった。
 4. SEL の学習の後で、お子様に変化が見られたと思われませんか。
 - (1) 一番近いものに○をつけて下さい。
 - ① かなり変化が見られた。
 - ② 多少の変化が見られた。
 - ③ あまり変化は見られなかった。
 - ④ ほとんど変化は見られなかった。
 - (2) 変化があったと思われるのは、どのような姿ですか。できるだけ詳しくお知らせ下さい。（今回の学習内容と直接関係がないと思われることでもかまいません。）
 5. このような学習を学校とご家庭が連携して行うことについて、どう思われますか。ご意見や感想をお聞かせ下さい。
-

1 年間に予定していたユニットがほぼ終わった後の 2012 年 1 月上旬に、実験校の学級担任の教師 18 名に、実践後の感想などを尋ねるアンケートを行った。なお、11 月のアンケートについては、11 月下旬に実験校の職員に報告した。

結果

a. 対人関係能力測定のための尺度

小学生版「社会性と情動」尺度について、因子ごとに事前調査から事後調査への変化量を算出し、実験校と統制校の違いを t 検定で検討した (Table 4)。その結果、各学年 1～3 つの因子において実験群の差が有意（または有意傾向）に大きくなっていった。3 年生と 6 年生の自己への気づきを Figure 1 と Figure 2 に示す。

b. 自尊感情測定のための尺度

自尊感情測定尺度についても a と同様に回答を処理し、検定結果を Table 4 にまとめた。このうち、自信・確信の表明において、3 年生 (Figure 1) で有意差、5 年生と 6 年生 (Figure 2) で有意傾向が認められた。

c. 教師による個人評定

a, b の測定内容の教師評定についても、同様に処理し検定結果を Table 5 にまとめた。小学生版「社会性と情動」尺度については、学年間で結果が異なり、2 年生と 5 年生で多くの因子で有意差

が見られた。自尊感情測定尺度についても同様に学年間でばらつきがあり、2 年生は 3 つの因子全てで、実験群が統制群より有意に高くなっていった。

Table 4, 5 の検定結果をまとめたものが Table 6 である。

d. チャレンジ週間

各学年で取り組んだチャレンジカードの保護者のコメントの一部を、Table 7 にまとめた。全て 1 週間の取組であったが、保護者からはそれぞれのスキルに対する子どもの成長に気づいたもの、保護者自身に関する気づきがあったもの、今後も家庭で取り組んでいこうとする意欲的なものなどのコメントがあった。また、この取組を再度行ってほしいという要望も見られた。

e. 全校保護者アンケート

全児童の保護者を対象に実施した SEL-8S についてのアンケートの主な結果を Table 8 にまとめた。

このアンケートについては、445 名の児童の保護者（回収率 81.7%）から回答を得ることができた。このうち、72.7% の保護者が SEL-8S の学習を行っていることを認識していた (Figure 3)。しかし、「知っていても授業参観時のショートエクササイズは見ていない」という人が 20% 以上いた (Figure 4) ことや、子どもの変化は「ほとんど見られなかった」としている人が 40% 近く

Table 4 児童自己評定の平均値とSD及び検定結果

	実験群			統制群			差の検定結果
	事前	事後	差(SD)	事前	事後	差(SD)	t値(df)
3年生							(156)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.91	3.05	0.14(0.69)	3.09	3.02	-0.07(0.79)	6.07*
他者の支持を求める	3.19	3.27	0.08(0.81)	3.20	3.21	0.01(0.65)	0.85
失敗事態下の行動	2.93	3.01	0.08(0.72)	2.94	2.92	-0.02(0.79)	1.73
SEL8つの能力尺度							(155)
自己への気づき	2.89	3.15	0.26(0.97)	3.11	3.16	0.05(0.81)	3.28+
他者への気づき	2.98	3.05	0.07(0.82)	2.98	2.99	0.01(0.66)	0.61
自己のコントロール	2.81	2.83	0.02(0.95)	2.74	2.71	-0.03(0.98)	0.06
対人関係	3.21	3.02	-0.19(1.02)	3.01	2.93	-0.08(0.84)	0.58
責任ある意志決定	2.89	2.82	-0.07(0.87)	2.79	2.73	-0.06(0.86)	0.18
生活上の問題防止スキル	3.33	3.30	-0.03(0.82)	3.18	3.29	0.11(0.92)	1.23
人生の重要事態に対処する能力	2.98	2.84	-0.14(0.99)	2.95	3.00	0.05(0.74)	1.82
積極的・貢献的な奉仕活動	3.04	3.11	0.07(0.92)	3.04	3.06	0.02(0.83)	0.10
4年生							(164)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	3.33	3.23	-0.10(0.49)	2.91	2.89	-0.02(0.79)	0.36
他者の支持を求める	3.40	3.40	0.00(0.60)	3.11	2.99	-0.12(0.76)	1.74
失敗事態下の行動	3.14	3.07	-0.07(0.64)	2.79	2.74	-0.05(0.77)	0.00
SEL8つの能力尺度							(165)
自己への気づき	3.38	3.28	-0.10(0.68)	3.11	2.98	-0.13(0.78)	0.64
他者への気づき	3.15	3.08	-0.07(0.62)	2.86	2.93	0.07(0.64)	1.75
自己のコントロール	3.07	2.90	-0.17(0.66)	2.62	2.50	-0.12(0.75)	0.28
対人関係	3.29	3.19	-0.10(0.54)	3.02	2.87	-0.15(0.84)	0.55
責任ある意志決定	2.99	2.88	-0.11(0.69)	2.65	2.72	0.07(0.68)	2.30
生活上の問題防止スキル	3.46	3.37	-0.09(0.68)	3.18	3.01	-0.17(0.73)	0.57
人生の重要事態に対処する能力	3.07	2.93	-0.14(0.68)	2.85	2.80	-0.05(0.67)	0.55
積極的・貢献的な奉仕活動	3.34	3.16	-0.18(0.75)	2.86	2.92	0.06(0.80)	2.87+
5年生							(152)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	3.25	3.39	0.14(0.45)	3.13	3.12	-0.01(0.61)	3.55+
他者の支持を求める	3.42	3.49	0.07(0.51)	3.19	3.26	0.07(0.61)	0.37
失敗事態下の行動	3.05	3.05	0.00(0.63)	2.87	2.92	0.05(0.56)	0.01
SEL8つの能力尺度							(153)
自己への気づき	3.23	3.38	0.15(0.49)	3.23	3.32	0.09(0.74)	2.63
他者への気づき	3.22	3.23	0.01(0.48)	3.10	3.15	0.05(0.50)	0.02
自己のコントロール	2.87	2.91	0.04(0.48)	2.81	2.81	0.00(0.64)	4.19
対人関係	3.23	3.22	-0.01(0.52)	3.05	3.13	0.08(0.54)	0.40
責任ある意志決定	3.02	3.07	0.05(0.52)	2.88	2.93	0.05(0.65)	0.20
生活上の問題防止スキル	3.42	3.39	-0.03(0.42)	3.19	3.13	-0.06(0.54)	3.34+
人生の重要事態に対処する能力	3.10	3.22	0.12(0.56)	2.97	2.96	-0.01(0.48)	10.09**
積極的・貢献的な奉仕活動	3.27	3.23	-0.04(0.43)	3.03	3.02	-0.01(0.52)	0.03
6年生							(166)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	3.10	3.32	0.22(0.46)	3.08	3.10	0.02(0.59)	3.58+
他者の支持を求める	3.47	3.57	0.10(0.51)	3.40	3.42	0.02(0.51)	1.16
失敗事態下の行動	2.88	2.98	0.10(0.57)	2.86	2.95	0.09(0.81)	0.05
SEL8つの能力尺度							(166)
自己への気づき	3.27	3.43	0.16(0.47)	3.27	3.30	0.03(0.70)	4.99*
他者への気づき	3.18	3.27	0.09(0.52)	3.10	3.18	0.08(0.58)	0.81
自己のコントロール	2.86	3.01	0.15(0.69)	2.68	2.84	0.16(0.84)	0.13
対人関係	3.29	3.41	0.12(0.44)	3.04	3.10	0.06(0.61)	2.94+
責任ある意志決定	2.86	3.02	0.16(0.59)	2.91	2.93	0.02(0.66)	0.03*
生活上の問題防止スキル	3.29	3.46	0.17(0.59)	3.03	3.17	0.14(0.79)	1.05
人生の重要事態に対処する能力	3.07	3.14	0.07(0.54)	3.03	3.09	0.06(0.65)	1.26
積極的・貢献的な奉仕活動	3.25	3.32	0.07(0.52)	2.94	3.03	0.09(0.70)	0.35

+ $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

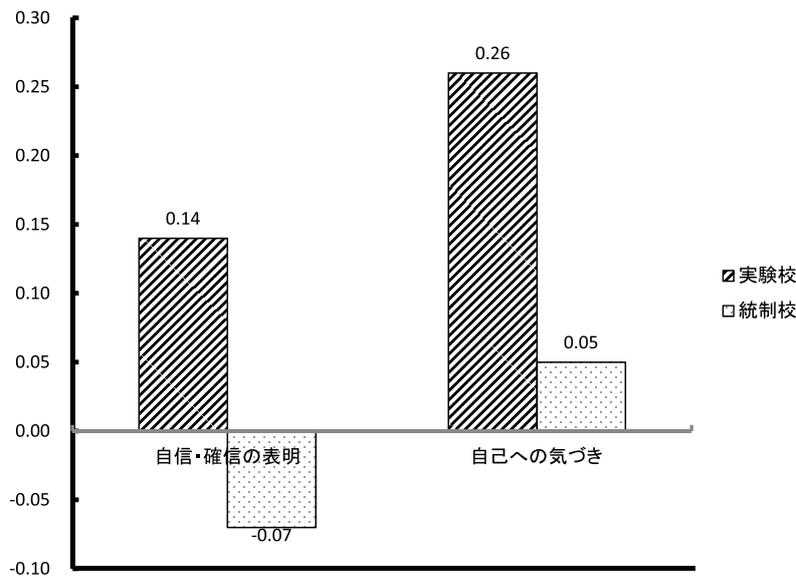


Figure 1 3年生の実験校と統制校の変化量の差
(事後－事前)の平均値

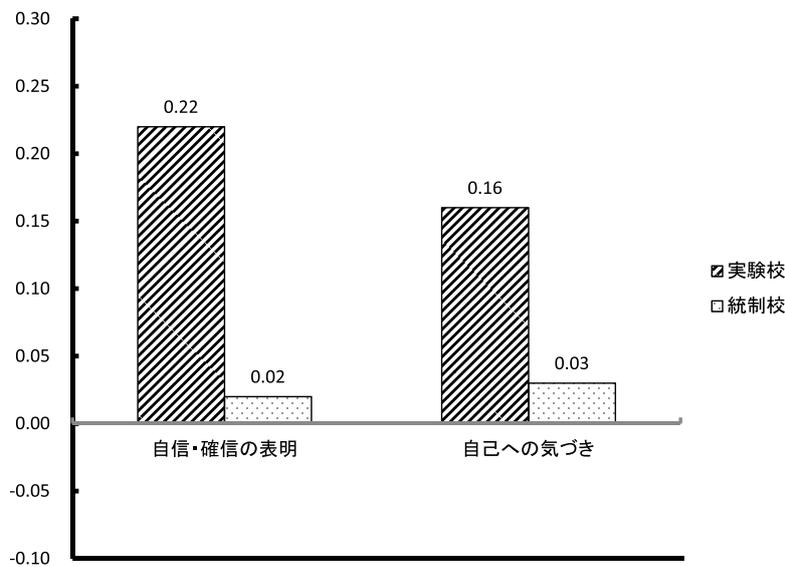


Figure 2 6年生の実験校と統制校の変化量の差
(事後－事前)の平均値

いた (Figure 5) ことから、本研究のねらいが保護者に十分伝わっておらず、また子どもの変容は保護者が認識できるほどにはいたっていなかったと言えよう。ただし、記述による回答によると、SEL-8SについてはTable 8のように好意的な意見が多く、期待を寄せていることが分かる。しかし、取組のねらいやよさが分からない・知らないというものもあった。保護者には、SEL-8Sのね

らいを十分に説明すれば、今回以上の協力が期待できると考えられる。

f. 実験校の教師アンケート

1月上旬に実験校の担任教師に行ったアンケートの主な感想をTable 9にまとめた。SEL-8Sの効果について、「効果があった」(3名)「まあ効果があった」(14名)と答えた教師は17名で、程度の差はあるがほとんどの担任教師が効果を感じ

Table 5 教師評定の平均値とSD及び検定結果

	実験群			統制群			差の検定結果
	事前	事後	差(SD)	事前	事後	差(SD)	t値(df)
1年生							(147)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.67	3.05	0.38(0.61)	2.37	2.98	0.61(0.88)	3.66+
他者の支持を求める	3.07	3.08	0.01(0.62)	2.73	3.07	0.34(0.72)	8.96**
失敗事態下の行動	3.00	3.16	0.16(0.59)	2.83	3.08	0.25(0.91)	0.44
SEL8つの能力尺度							(147)
自己への気づき	3.04	2.89	-0.15(0.63)	2.23	3.13	0.90(0.77)	82.71**
他者への気づき	2.59	3.00	0.41(0.68)	2.33	3.15	0.82(0.87)	10.95**
自己のコントロール	2.87	2.70	-0.17(0.64)	2.70	3.15	0.45(0.88)	24.19**
対人関係	2.71	2.79	0.08(0.61)	2.23	3.00	0.77(0.97)	26.81**
責任ある意志決定	2.73	2.98	0.25(0.66)	1.72	2.92	1.20(0.87)	56.83**
生活上の問題防止スキル	3.14	3.22	0.08(0.74)	2.85	3.35	0.50(0.76)	10.51**
人生の重要事態に対処する能力	3.02	3.09	0.07(0.61)	2.48	3.20	0.72(0.97)	24.74**
積極的・貢献的な奉仕活動	2.92	3.09	0.17(0.57)	2.13	2.97	0.84(0.88)	31.13**
2年生							(154)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.43	2.92	0.49(0.58)	3.05	2.76	-0.29(0.69)	61.87**
他者の支持を求める	2.57	2.83	0.26(0.48)	3.96	2.91	-1.05(0.59)	25.95**
失敗事態下の行動	2.85	3.04	0.19(0.54)	3.00	2.92	-0.08(0.54)	13.42**
SEL8つの能力尺度							(154)
自己への気づき	2.39	2.78	0.39(0.55)	3.00	3.07	0.07(0.57)	14.50**
他者への気づき	2.42	2.93	0.51(0.83)	3.00	3.13	0.13(0.57)	13.92**
自己のコントロール	2.57	3.04	0.47(0.80)	2.94	2.89	-0.05(0.63)	23.59**
対人関係	2.44	2.82	0.38(0.68)	2.94	2.90	-0.04(0.63)	18.40**
責任ある意志決定	2.31	2.79	0.48(0.82)	3.14	2.83	-0.31(0.64)	51.11**
生活上の問題防止スキル	2.85	2.92	0.07(0.52)	3.04	3.31	0.27(0.66)	2.45
人生の重要事態に対処する能力	2.72	2.86	0.14(0.59)	3.00	3.20	0.20(0.52)	0.01
積極的・貢献的な奉仕活動	2.61	2.93	0.32(0.59)	3.18	3.23	0.05(0.55)	11.64**
3年生							(155)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.96	2.79	-0.17(0.67)	2.59	2.53	-0.06(0.59)	3.72+
他者の支持を求める	3.06	2.89	-0.17(0.69)	2.92	2.73	-0.19(0.62)	0.02
失敗事態下の行動	2.98	2.80	-0.18(0.66)	2.86	2.72	-0.14(0.85)	0.00
SEL8つの能力尺度							(155)
自己への気づき	2.98	2.85	-0.13(0.63)	2.99	2.57	-0.42(0.60)	7.44**
他者への気づき	3.02	2.82	-0.20(0.84)	2.93	2.56	-0.37(0.67)	0.96
自己のコントロール	3.12	2.82	-0.30(0.57)	2.99	2.51	-0.48(0.65)	3.67+
対人関係	2.92	2.76	-0.16(0.61)	2.86	2.54	-0.32(0.67)	1.46
責任ある意志決定	2.79	2.75	-0.04(0.62)	2.38	2.48	0.10(0.74)	2.06
生活上の問題防止スキル	3.34	3.22	-0.12(0.75)	3.04	2.73	-0.31(0.69)	3.57+
人生の重要事態に対処する能力	2.97	2.88	-0.09(0.63)	2.96	2.60	-0.36(0.54)	9.71**
積極的・貢献的な奉仕活動	2.99	2.91	-0.08(0.90)	3.00	2.70	-0.30(0.69)	3.77+
4年生							(164)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.63	2.46	-0.17(0.66)	3.11	2.74	-0.37(0.86)	3.39+
他者の支持を求める	2.91	2.88	-0.03(0.61)	3.02	2.82	-0.20(0.86)	3.17+
失敗事態下の行動	2.81	2.76	-0.05(0.64)	2.93	2.89	-0.04(1.03)	0.02
SEL8つの能力尺度							(164)
自己への気づき	2.84	2.73	-0.11(0.67)	3.46	2.94	-0.52(1.01)	8.86**
他者への気づき	2.59	2.68	0.09(0.65)	2.97	2.97	0.00(1.06)	0.14
自己のコントロール	2.65	2.77	0.12(0.60)	3.21	2.87	-0.34(1.34)	6.72*
対人関係	2.65	2.70	0.05(0.71)	2.92	2.81	-0.11(1.08)	1.10
責任ある意志決定	2.24	2.50	0.06(0.64)	2.82	2.62	-0.20(1.13)	7.96**
生活上の問題防止スキル	3.37	3.65	0.28(0.55)	3.14	3.12	-0.02(1.16)	4.03*
人生の重要事態に対処する能力	2.76	2.82	0.06(0.68)	3.10	2.96	-0.14(1.11)	1.81
積極的・貢献的な奉仕活動	2.70	2.85	0.15(0.79)	2.96	2.88	-0.08(1.24)	2.07

Table 5 (つづき)

	実験群			統制群			差の検定結果
	事前	事後	差(SD)	事前	事後	差(SD)	t 値(df)
5年生							(152)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.88	2.78	-0.10(0.50)	2.72	2.84	0.12(0.91)	2.76+
他者の支持を求める	2.98	2.75	-0.23(0.73)	2.84	2.72	-0.12(0.95)	0.34
失敗事態下の行動	3.08	2.92	-0.16(0.52)	2.88	2.84	-0.04(1.01)	0.29
SEL8つの能力尺度							(153)
自己への気づき	2.77	2.88	0.11(0.92)	3.19	2.87	-0.32(0.78)	30.35**
他者への気づき	2.60	2.97	0.37(0.74)	2.81	2.78	-0.03(0.87)	19.19**
自己のコントロール	2.69	2.82	0.13(0.80)	2.85	2.78	-0.07(0.86)	12.19**
対人関係	2.58	2.61	0.03(0.75)	2.73	2.78	0.05(0.88)	0.51
責任ある意志決定	2.47	2.81	0.34(0.73)	2.81	2.85	0.04(0.74)	5.60*
生活上の問題防止スキル	2.87	3.34	0.47(0.77)	3.22	2.97	-0.25(0.80)	40.11**
人生の重要事態に対処する能力	2.59	2.95	0.36(0.86)	3.04	2.82	-0.22(0.76)	25.96**
積極的・貢献的な奉仕活動	2.79	3.05	0.26(0.85)	2.88	2.79	-0.09(0.97)	11.26**
6年生							(165)
自尊感情測定尺度							
自信・確信の表明	2.85	3.06	0.21(0.64)	2.55	2.62	0.07(0.70)	3.68+
他者の支持を求める	3.05	3.15	0.10(0.49)	2.51	2.70	0.19(0.74)	0.94
失敗事態下の行動	2.97	3.17	0.20(0.59)	2.65	2.79	0.14(0.78)	0.40
SEL8つの能力尺度							(166)
自己への気づき	3.16	3.19	0.03(0.56)	2.60	2.92	0.32(0.89)	7.39**
他者への気づき	3.16	3.26	0.10(0.53)	2.89	2.85	0.04(0.85)	2.20
自己のコントロール	3.06	3.20	0.14(0.41)	2.45	2.73	0.28(1.04)	2.00
対人関係	3.07	3.20	0.13(0.45)	2.62	2.66	0.04(0.85)	0.58
責任ある意志決定	3.01	3.01	0.00(0.48)	2.58	2.90	0.32(0.87)	7.58
生活上の問題防止スキル	3.45	3.47	0.02(0.45)	2.99	3.04	0.05(0.86)	0.31
人生の重要事態に対処する能力	3.00	3.08	0.08(0.52)	2.89	2.79	-0.10(0.88)	3.10+
積極的・貢献的な奉仕活動	2.97	3.05	0.08(0.69)	2.94	2.82	-0.14(1.02)	2.93+

+ $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

Table 6 児童自己評定と教師評定の検定結果のまとめ

	児童自己評定				教師評定					
	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
自尊感情測定尺度										
自信・確信の表明	◎		○	○		◎		○		○
他者の支持を求める						◎		○		
失敗事態下の対処能力						◎				
小学生版「社会性と情動」尺度										
自己への気づき	○			◎		◎	◎	◎	◎	
他者への気づき						◎			◎	
自己のコントロール						◎	○	◎	◎	
対人関係				○		◎				
責任ある意志決定				◎		◎		◎	◎	
生活上の問題防止スキル			○				○	◎	◎	
人生の重要事態に対処する能力			◎				◎		◎	○
積極的・貢献的な奉仕活動						◎	○		◎	○

○ $p < .10$ ◎ $p < .05$ (実験群が高得点の場合のみ)

Table 7 チャレンジカードの保護者コメント（一部）

1年生「きもちチャレンジカード」

- ・言葉にすることで気持ちを整理していたように思う。
- ・思っていることを言葉で伝えてくれることで、何を考えているか分かり、怒ることも少なくなった。気持ちを伝える大切さが分かったのか、何でも話してくれるようになった。
- ・今後も続けていこうと思う。
- ・思っても言葉で伝えないことが多いので、このような形で取り組んでもらってよかった。

2年生「きもちチャレンジカード」

- ・今週は、チャレンジカードのおかげで、学校のことや友達のことをたくさん話してくれた。
- ・今回の取組で、嬉しい気持ち、感謝の気持ちを上手に伝える努力をしているのがよく分かった。こちらも自然と笑顔が増えたように思う。

3年生「ほめほめチャレンジカード」

- ・人の気持ちになって考える力を身につけられたのではないかと思った。
- ・口べたなところがあるので、この取組はいい経験になったと思う。
- ・親の私も日頃から気をつけて「ほめほめチャレンジ」をしていかなければと思った。

4年生「ストレス対処チャレンジカード」

- ・心の中ではいろいろなことを思っていて、自分で対処していたんだな…、と成長を感じた。
- ・子どものうつ病も増加していると聞くので、うまく解消できるよう考えていかなければと思った。
- ・子どものことがよく分かり、またこういうプリントを作ってほしいと思う。

5年生「ふわふわ言葉チャレンジカード」

- ・家でもふわふわ言葉が使えていて、下の子たちにも教えてくれている。
- ・ふわふわ言葉をふだんからたくさん使っていることに気がつけてよかった。
- ・この取組用紙を見て、親の私が一番気をつけないといけない、と反省した。
- ・日頃からこの取組を意識することが続けばいいなと思う。

6年生「思いやりチャレンジカード」

- ・とてもよい取組。今後も続けていってほしい。
- ・周りに気を遣うことを意識づけるよい機会だったと思う。
- ・私が忙しいと思ったのか、初めて自分で洗濯物を取り込んでいた。

じており、継続することの大切さを感じている教師もいた。また、カリキュラム構成については、「大体よい」とする意見が4名、「もっと入れた方がよい」とする意見が1名、「月に1回でよい」とする意見が1名、「学期に1回でよい」とする意見が1名、「子どもの実態に即して見直していくべき」とする意見が1名となっていた。

考察

児童の変容に関しては、自己評定尺度に比べると教師評定において、実験校の方が統制校よりもより好ましい変化を示す有意差や有意な傾向が多く見られた。これは、担任教師は児童の肯定的な変化に気づくが、児童自身は気づきにくい（藤枝・相川，2001）と解釈することもできる。また、SEL-8Sのユニットを学習することで、実験群の児童の要求水準が上がり、自己評価が厳しくなった可能性も考えられる。なお、自尊感情については同様の実践を1学級で検討した橋本・小泉（2011）でもねらいとした効果は見られておらず、今後の検討が必要である。また、SEL-8Sの実施効果がほとんど見られなかった1年生については、統制群で何らかの取組を実施した可能性がある。

保護者との連携については、チャレンジカードのコメントや保護者アンケートの結果から、このような取組に好意的な意見をもった保護者が多いことが分かる。チャレンジ週間の取組では、それぞれの内容について家庭で協力して取り組んだ姿や取組をきっかけに子どもへの理解が深まった様子が報告された。また、取組の継続を希望するコメントもいくつか見られたことなどからも、家庭との連携の方法として有効であったと考えられる。

全校保護者アンケートからは、取り組んだユニットで取り扱ったスキルが伸びていることと、それ以外のスキルも伸びているという記述があったことから、SEL-8Sを行ったことが、発達課題を達成するのに役立っている可能性が考えられる。また、SEL-8Sを学校と家庭が連携して行うことについては、好意的な意見が多かったことから、保護者には、SEL-8Sのねらいを十分に説明すれば、今回以上の協力が期待できると考えられる。

SEL-8Sの実践における家庭との連携は、これまでも学級単位の実践では報告されている（橋本・小泉，2011；田中・小泉，2007）が、全校での取組が報告されたのは今回が初めてである。具

Table 8 全校保護者アンケート（記述回答の一部）

変化があった児童の姿についての記述

学習したスキルに関する変化

- ・自分から友だちに声をかけられるようになった。(1年生)
- ・知らない人でもあいさつできるようになった。(1年生)
- ・自分の感情をうまく伝えることができるようになった。(2年生)
- ・「大丈夫？」など気遣いをする声かけができるようになった。(2年生)
- ・いじめのことやお金のこと等してはいけないこと等話すようになった。(3年生)
- ・気もちの切り替えが早くなった。(4年生)
- ・イライラしていることが減っている。(4年生)
- ・言葉によって相手の受け止め方が違うことを考えられるようになった。(5年生)
- ・あいさつや手伝いをよくするようになった。(5年)・友だちとの約束を守るようになった。(5年)
- ・少し周りを見るようになった。(6年生) ・思いやる気もちを持てた。(6年生)

学習したスキル以外の変化

- ・学校に行きたがらない日があったが、なくなった。 ・積極的に人と話すようになった。(1年生)
- ・学校であったこと、発見したことをよく話すようになった。(2年生)
- ・相手の意見が聞けるようになり、相手の気持ちも前に比べて理解するようになった。(2年生)
- ・人を思いやる気持ちや助け合う気持ちが育っている。 ・以前より活動的になった。(3年生)
- ・兄弟げんかをして、二人で解決できることが増えた。 ・相手の気持ちを考えるようになった。(4年生)
- ・コミュニケーションができるようになった。(4年生)
- ・礼儀正しくなった。 ・交友関係が広がり、多人数で約束をして遊ぶようになった。(5年生)
- ・親に相談するようになった。 ・「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉が出るようになった。(5年生)
- ・手伝いをするようになった。 ・人間関係を大事にするようになった。(6年生)
- ・学校のことを話すことが少し増えた。 ・友だちと仲良くあそぶようになった。(6年生)
- ・友だちの意見を参考にして取り入れることができるようになった。(6年生)

SEL を学校と家庭で連携して行うことについての記述

連携に理解、取組の継続要望

- ・続けて行っていたことで今すぐに変化は起きなくても、人生のどこかで役に立つのではと思う。一時的な活動にせずずっと続けてほしいです。
- ・とても楽しそうに SEL の学習をしていたのでこのまま続けて行って欲しい。今すぐに変化はなくても続けて行くことで高学年になったときなどにいい効果がでてくるのではと思う。
- ・まだ回数を重ねていくことで変化が見られるのかもしれない。1年生頃からあればよかった。
- ・とてもよいことだと思う。5～10年の長いスパンで結果をみてほしい。
- ・どんどん増やしてほしいと思います。
- ・人格形成、人間関係において効果的だと思う。ぜひ、もっと行ってほしい。

取組に賛同、積極的に協力の姿勢

- ・もっと積極的活動を希望。
- ・ぜひ学校と連携し、未来の子どもたちの育成に取り組みたい。
- ・学校で取り組んでいることが家庭でも分かってよい。
- ・すてきなことだと思う。ありがたい。知らなくて残念。
- ・家庭内では、親もいいお手本にはならないので、いい機会だと思う。

取組、連携に関する意見

- ・連携するにはもっと情報が必要。
- ・どのようなスケジュールなのか家庭での連携とはどういうことを行えばよいのか分からない。
- ・もっと家庭と学校とが深く関わるべき。家庭側からも参加できればと思う。
- ・詳しく分かりやすく教えてほしい。
- ・親子でゆっくり学習したい。(お話を聞きたい)

取組、連携に関して無関心・批判的

- ・子どもはあまり関心がないようだ。
- ・行った方がよいとは思いますが、あまり期待はしていない。
- ・勉強不足でよく分からない。

体的には、学年・学級通信での広報、保護者による家庭でのコメント記入、授業参観の機会を利用したのショートエクササイズの公開や体験、そしてアンケート依頼を行った。実践の期間は9か月ほどであり、周知を図り効果を確かなものにするにはさらに長い期間を要すると考えられるが、具

体的な取組例を提示できた意味は大きいと考えられる。

実践の主体となった教師について、アンケート結果からは、ユニットの行われたときだけでは効果は続かないということにほとんどの教師が気づいていた。「教師が意識していかなければいけな

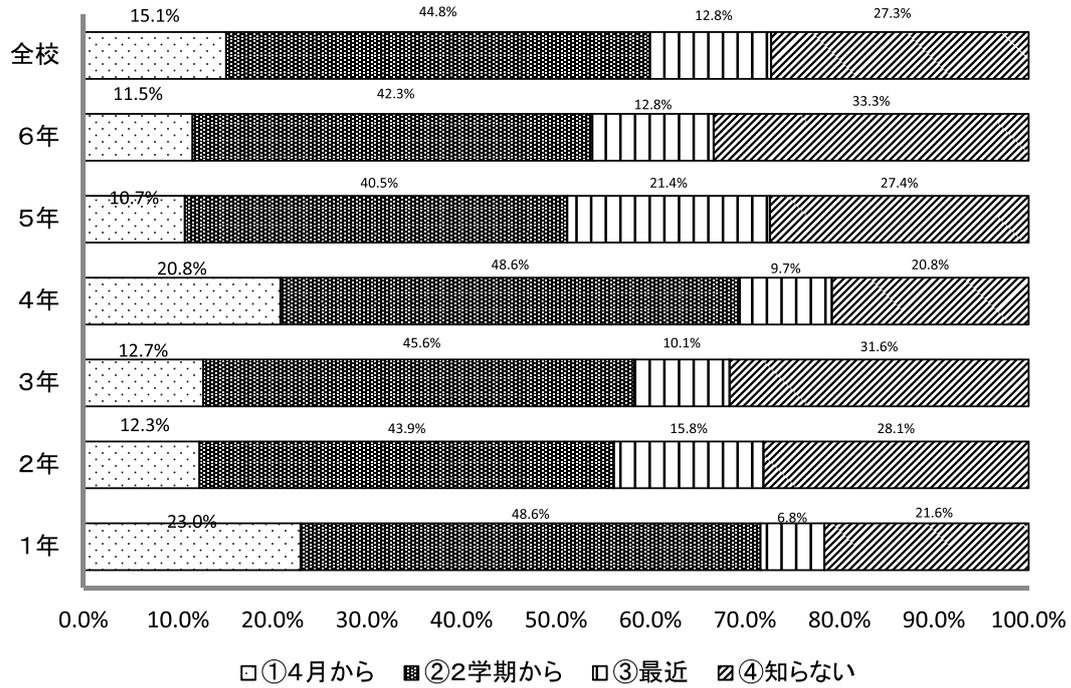


Figure 3 SEL-8S の取組を知った時期についての回答

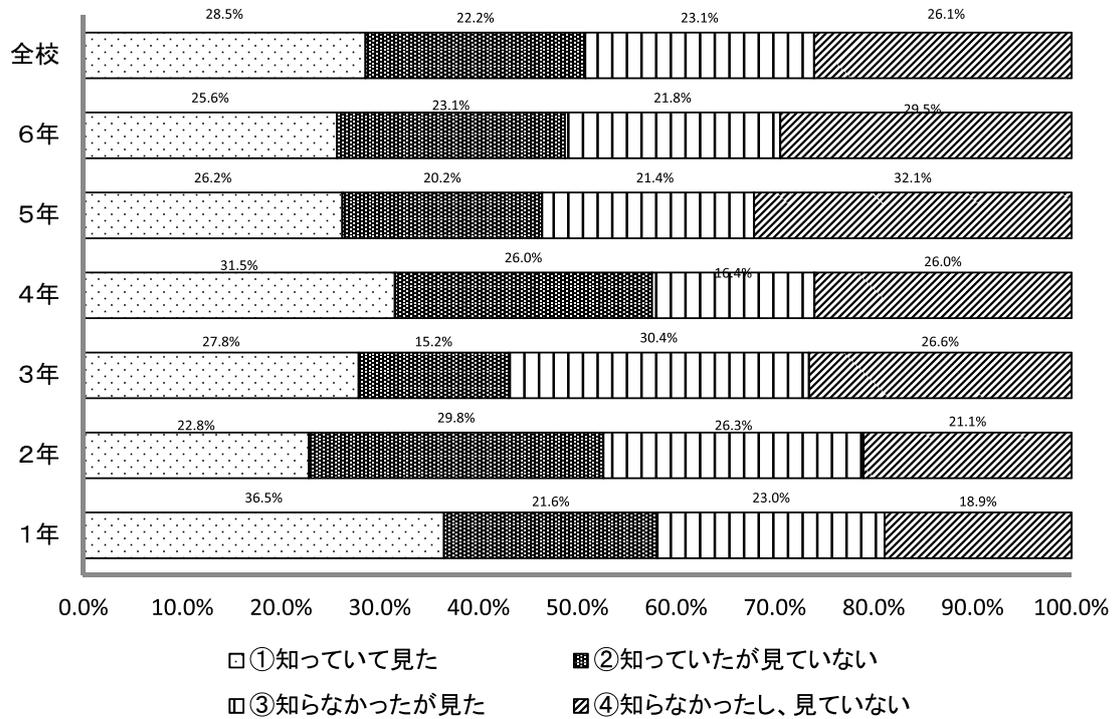


Figure 4 授業参観での SEL-8S を見たかどうかについての回答

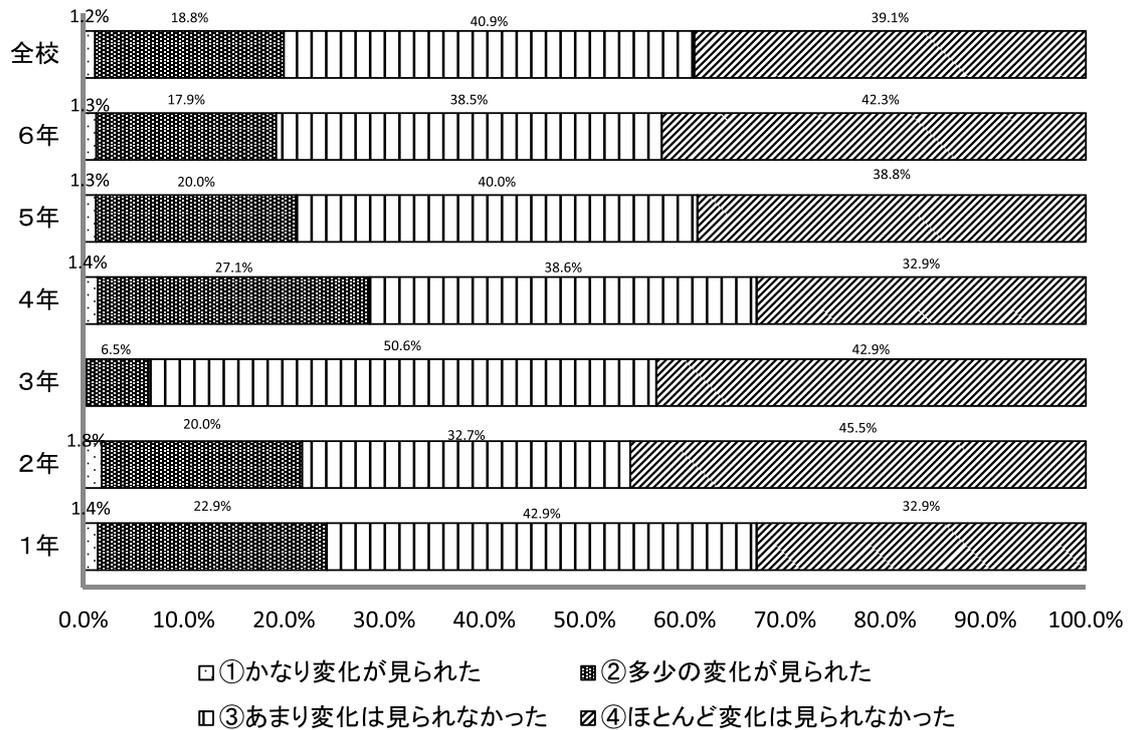


Figure 5 子どもの変化が見られたかについての回答

Table 9 担任教師の感想（一部）

- SELの学習の機会をもつことで、社会で大切なことについて意識できるようになるので、とても大切なことだと思う。
- 教師が指導するだけよりも、自分たちで考えたり練習したりすることで、よく意識できるようになったのかなと思う。
- 対人関係の力が少し足りない子どもたちに、気持ちを伝えたり分かろうとしたりする力が付いてきているように感じる。
- 意識づけができたし、生活指導でも振り返らせることができた。
- すぐに力になるとは言えないが、意識することで一呼吸おけるよさがある。
- 子どもたちの会話の中に「(あいさつは) 目を見て言わんと」という言葉が聞かれたり、すぐにカッとなっていた子どもが、気持ちを抑えられるようになってきたりしている。
- 他教科との関連もできているのでよいと思う。
- 実施した時は意識している様子が見られたが、担任が意識して継続しなければ、効果は薄いと思う。
- 取り組むなら、もっとたくさん入れた方がよいと思う。

○成果 ●課題

い」という意見や、「継続」という言葉を使っている教師が多かったことから、効果的な継続の手立てを工夫する必要があると言える。また、家庭との連携については、学級間での違いが出ている。学級・学年通信合わせて1回という学級と、学級通信で3回という学級では、家庭への伝わり方や家族を通しての子どもの変容の程度も違ってくる予想される。どの学級も同じ様な頻度で家庭と連携する手立てが必要ではないかと考えられる。

まとめと今後の課題

SEL-8Sを教育課程に位置づけて全校で実施す

ることにより、教師が一定の視点をもって児童を見るようになり、社会的能力や自尊感情にある程度のよい効果が見られるようになるということが分かった。また、教師評定でSEL-8Sの能力が高まっているが、自尊感情においては高まっている因子は少ないことから、自尊感情を高めるためには、さらなる継続が必要であると考えられる。イライアスら(1999)は、SELの効果 genuinely 現れるには、2～3年はかかることも述べている。今後もSEL-8Sへの取組を継続していくことで、児童の自尊感情が高まっていくことが十分期待できる。

また、猪田(2011)は、担任がその児童のありのままを受け入れ、あたたかいメッセージを絶えず送り続けることや、家庭との連携により、両方から児童を包み込むように支援していくことが必要であると述べている。家庭との連携を進めることでの効果も期待できる。

そのための今後の課題として、以下の3点が考えられる。まず、1点目は、教育課程に位置づけたSEL-8Sのプログラムやユニットを児童のニーズにあったものになるように検討し、工夫・改善していくことである。本研究におけるプログラムを基本として、児童の実態に合わせたものとする必要がある。

2点目は、家庭との連携において、学級による差が出ないようにある程度統一することである。SEL-8Sについてどの家庭にも周知してもらい、協力・連携ができるようにするには、PTAと連携した取組として各家庭に浸透させていくような工夫も考える必要がある。

3点目は、SEL-8Sで身につけさせようとしている能力は、教科の学力を身につけさせることと同じように重要なことだという視点を、多くの教師や保護者に受け入れてもらえるようにすることである。新しいことに取り組むときは、教師や保護者にその必要性を十分に理解してもらう必要がある(中山・小泉, 2010)。しかし、いくら説明しても実際にやってみたり、児童の変化を感じたりしなければ本当に理解してもらったことにはならない。理解してもらえなければ実践の継続にはつながらないことが、担任教師の感想からも分かる。

今後も実践を積み重ねていくことで、自尊感情を高め、意欲をもって生きることの出来る児童を育てていきたい。

引用文献

- 藤枝静暁・相川充 2001 小学校における学級単位の社会的スキル訓練の効果に関する実験的検討 教育心理学研究, 49, 371-381.
- 橋本智恵・小泉令三 2011 家庭との連携を重視した社会性と情動の学習(SEL)の試行的実践 教育実践研究(福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター), 19, 287-294.
- 井上信子 1986 児童の自尊心と失敗課題の対処との関連 教育心理学研究, 34, 10-19.
- 猪田直美 2011 自尊感情を育む学級活動の工夫—あたたかい言葉がけによる相互評価の継続を通して— 上越教育大学教育実践研究, 21,

241-250.

- イライアス M.J.ら(著), 小泉令三(編訳) 1999 社会性と感情の教育—教育者のためのガイドライン39— 北大路書房
- 小泉令三 2002 学校・家庭・地域社会連携のための教育心理学的アプローチ—アンカーポイントとしての学校の位置づけ— 教育心理学研究, 50, 237-246.
- 小泉令三 2011 子どもの人間関係を育てる SEL-8S ①社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践 ミネルヴァ書房
- 小泉令三・山田洋平 2011 子どもの人間関係を育てる SEL-8S ②社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編 ミネルヴァ書房
- 教育力向上福岡県民会議 2008 福岡の教育ビジョン 第二次提言
- 宮原紀子・小泉令三 2009 中学校の学校行事と関連づけた社会性と対人関係能力の向上—社会性と情動の学習(SEL)プログラムの活用による試行的実践— 教育実践研究(福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター), 17, 143-150.
- 文部科学省 2008 小学校学習指導要領解説特別活動編
- 中山和彦・小泉令三 2010 児童の規範意識を高め、規範的な行動を促す単元構成の工夫—心理教育プログラムを活用した総合単元プランを通して— 教育実践研究(福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター), 18, 143-150.
- 田中展史・小泉令三 2007 社会性と情動の学習(SEL)プログラムの強化・般化に関する試行的実践—教科等との関連づけ, 目標の個別化, 保護者との連携を通して— 福岡教育大学心理教育相談研究, 11, 73-81.
- 田中芳幸・真井晃子・津田彰・田中早 2011 小学生版「社会性と情動」尺度の開発 子どもの健康科学, 11, 17-30.

謝辞

本研究をまとめるにあたり、ご協力していただいたすべての皆様に、心より深く感謝申し上げます。